

# 造形表現における色彩イメージに関する研究(3)

小 江 和 樹 \*

(2011年10月25日 受理)

A Study of Color Image in Art Expression (3)

OE Kazuki

## 要約

本稿では、色彩イメージと具体的な造形表現との結びつきを考え、「季節のイメージカラー」についての調査を行い、それぞれの季節からイメージされる色彩、色相及びトーンの分布状況から、色相やトーンへの依存度とその特徴を明らかにした。その結果、それぞれの季節において、色相やトーンの依存度が異なる点、そして「季節のイメージカラー」は、暖寒感だけではなく、その季節からイメージされる具体的な事物や事象なども、選択される色彩の傾向に影響を与えている点が明らかになった。

**キーワード**：造形表現、季節、イメージカラー、色相、明度、彩度、トーン

## 1. はじめに

色彩には人の感覚や感情を動かす力があり、様々な色彩表現の場で活用されている。本研究においては、第1報(前々稿)で色彩認知イメージについて、そして第2報(前稿)では情緒イメージについて、具体的なイメージ対を設定し、それぞれのイメージで選択される色彩の傾向を明らかにしてきた。

そこで本稿では、より具体的な造形表現との結びつきを考え、「季節のイメージカラー」についての調査を行い、それぞれの季節からイメージされる色彩の傾向を明らかにしたい。そして、色彩イメージを活用した造形表現の教材化への可能性について考察を進めていきたい。

---

\* 鹿児島大学教育学部 教授

## 2. 研究方法

「季節のイメージカラー」については、以下に示すような条件で調査を行った。

### (1) 試料

調査に使用した試料は、前々稿及び前稿と同様の(財)日本色彩研究所監修の配色カード158aで、その内容は次の通りである。

#### 【有彩色】

トーン名称	記号	色相番号	色数
ビビッド	v	1～24	24
ブライツ	b	2～24 (偶数番号のみ)	12
ディープ	dp	2～24 (偶数番号のみ)	12
ライト	lt	2～24 (偶数番号のみ)	12
ソフト	sf	2～24 (偶数番号のみ)	12
ダル	d	2～24 (偶数番号のみ)	12
ダーク	dk	2～24 (偶数番号のみ)	12
パール	p	2～24 (偶数番号のみ)	12
ライトグレイッシュ	ltg	2～24 (偶数番号のみ)	12
グレイッシュ	g	2～24 (偶数番号のみ)	12
ダークグレイッシュ	dkg	2～24 (偶数番号のみ)	12
その他：2:R-4.5-1s, 2:R-4.5-3s, 2:R-4.5-5s, 2:R-4.5-7s, 2:R-4.5-9s			

#### 【無彩色】

トーン名称	記号
ホワイト	W
ライトグレイ	Gy-8.5
ライトグレイ	Gy-7.5
メディアムグレイ	Gy-6.5
メディアムグレイ	Gy-5.5
メディアムグレイ	Gy-4.5
ダークグレイ	Gy-3.5
ダークグレイ	Gy-2.5
ブラック	Bk

### (2) 被験者

被験者は鹿児島大学教育学部美術専修学生 80名

## (3) 手続き及び分析方法

被験者に配色カード貼付用紙を配付し、試料の配色カード 158a の中から、各季節のイメージに該当すると思われる色彩を選択し、用紙に貼り付けていく方法をとった。

そして、選択された色彩について季節ごとに集計し、その傾向と特徴を読み取りながら考察していく。

## 3. 「季節のイメージカラー」についての結果と考察

## (1) 「春」のイメージカラー

①選択色彩 : ライト 2 (36.3%)、ライト 24 (10.0%)、パール 2 (10.0%)

## ②色相について

分布状況 : 2 ~ 4、8 ~ 12、24

最大色相 : 2 (46.3%)

## ③トーンについて

分布状況 : ビビッド、ブライト、ライト、ソフト、パール

最大トーン: ライト (56.3%)

「春」のイメージとして選択される色彩は、ライト 2 が最も多く、次いでライト 24、パール 2 である。色相については、赤紫、赤、橙、黄、黄緑の暖色系を中心に分布し、色相番号 2 は特に高い値 (46.3%) を示している。またトーンについては、主にビビッド、ブライト、ライト、パールの明清色調に分布し、全体の 56.3% がライトに集中している。これらの結果から「春」のイメージとして選択される色彩については、色相は赤から黄の暖色系の色相で、トーンは明清色調、特にライトやパールが中心である。したがって「春」のイメージカラーは、色相とトーンの両方への依存度が高いようである。

## (2) 「夏」のイメージカラー

①選択色彩 : ビビッド 18 (20.0%)、ビビッド 4 (12.5%)、ビビッド 17 (7.5%)、  
ブライト 16 (7.5%)

## ②色相について

分布状況 : 2 ~ 19、21

最大色相 : 18 (28.8%)

## ③トーンについて

分布状況 : ビビッド、ブライト、ディープ、ライト、ダーク、パール

最大トーン: ビビッド (68.8%)

「夏」のイメージとして選択される色彩は、ビビッド 18 が最も多く、次いでビビッド 4、ビビッド 17、ブライト 16 の順である。色相については、赤、橙、黄、黄緑、緑、青緑、青、紫の広範囲に分布し、色相番号 18 はやや高い値 (28.8%) を示している。またトーンについては、ビビッ

ドを中心にブライト、ライト、ペールの明清色調とディープ、ダークの暗清色調にも分布しているが、全体の68.8%がビビッドに集中している。これらの結果から「夏」のイメージとして選択される色彩については、色相は青を中心としながらも赤への分布も見られ、非常に広範囲にわたり、トーンはビビッドが中心である。したがって「夏」のイメージカラーは、トーンへの依存度が高いようである。

### (3) 「秋」のイメージカラー

①選択色彩 : ディープ4 (12.5%)、ディープ8 (10.0%)、ディープ6 (8.8%),  
ダーク8 (8.8%)

#### ②色相について

分布状況 : 2 ~ 10, 14 ~ 16, 22 ~ 24

最大色相 : 4 (23.8%)

#### ③トーンについて

分布状況 : ビビッド、ブライト、ライト、ソフト、ダル、ダーク、ペール、グレイッシュ、  
ダークグレイッシュ

最大トーン : ディープ (41.3%)

「秋」のイメージとして選択される色彩は、ディープ4が最も多く、次いでディープ8、ディープ6、ダーク8の順である。色相については、赤紫、赤、橙、黄の暖色系に分布し、色相番号4は高い値(23.8%)を示している。またトーンについては、ディープ、ダークの暗清色調を中心に、ビビッド、ダル、ソフト、ペール等で広範囲に分布し、全体の41.3%がディープに集中している。これらの結果から「秋」のイメージとして選択される色彩については、色相は赤から黄の暖色系の色相で、トーンはディープ等の暗清色調が中心である。したがって「秋」のイメージカラーは、色相への依存度が高いようである。

### (4) 「冬」のイメージカラー

①選択色彩 : ペール18 (16.3%)、ライトグレイッシュ18 (11.3%)、ホワイト (11.3%)

#### ②色相について

分布状況 : 2 ~ 4, 8, 16 ~ 22

最大色相 : 18 (43.8%)

#### ③トーンについて

分布状況 : ビビッド、ディープ、ライト、ソフト、ダーク、ペール、ライトグレイッシュ、  
グレイッシュ、ダークグレイッシュ、ホワイト、ライトグレイ、  
メディウムグレイ、ダークグレイ

最大トーン : ペール (27.5%)

「冬」のイメージとして選択される色彩は、ペール18が最も多く、次いでライトグレイッシュ18、ホワイトである。色相については、青、紫に分布し、色相番号18は高い値(43.8%)を示

している。またトーンについては、ブライトとダルを除くほぼ全ての有彩色のトーンに分布し、さらに無彩色のトーンへの分布も見られ、全体の27.5%がペールである。これらの結果から「冬」のイメージとして選択される色彩については、色相は青から紫の寒色系の色相で、トーンは無彩色トーンも含め、多岐にわたっている。したがって「冬」のイメージカラーは、色相への依存度が高いようである。

#### 4. おわりに

「季節のイメージカラー」について、それぞれの季節からイメージされる色彩の傾向を調査した結果、次のような点が明らかになった。

- (1) 「春」のイメージカラーは、色相とトーンの両方への依存度が高く、そして桜に見られる春の花の色などの具体的な事物からの連想や、暑さを感じるということよりも、寒い冬の季節から暖かさを感じる春の季節への移行の時期を象徴するような具体的な事象からの連想によってイメージされる傾向が高いようである。
- (2) 「夏」のイメージカラーは、トーンへの依存度が高く、そして海の色や夏の青空などの具体的な事物からの連想、さらに具体的な事象からの連想としては、暑さそのものをイメージさせる暖色系の色彩と暑い時期に涼感を追求することによる寒色系の色彩に二分化する傾向が見られた。このような傾向は、他の季節には見られない「夏」のイメージカラー特有の分布状況である。
- (3) 「秋」のイメージカラーは、色相への依存度が高く、そして紅葉や落葉などの具体的な事物からの連想、さらに具体的な事象からの連想としては、暑い夏の季節から涼しさを感じる秋の季節への移行の時期を象徴するような色彩、つまり暖色系であっても、明度、彩度ともに低いトーンになる傾向が見られる。
- (4) 「冬」のイメージカラーは、色相への依存度が高く、そして雪や冬空などの具体的な事物からの連想、冬の寒さなどからイメージされる傾向が高いようである。さらに「冬」のイメージカラーの特徴として、無彩色のトーンへの分布があげられる。

「夏」や「冬」では、暖寒感からの影響がやや強いようだが、「春」や「秋」の場合は、具体的な事物や事象からの影響の方がより強く感じられる。したがって「季節のイメージカラー」は、暖寒感だけでなく、それぞれの季節からイメージされる具体的な事物や事象なども、選択される色彩の傾向に影響を与えているようである。

このような調査結果と考察を踏まえて、次稿においては、具体的な造形表現活動「季節を色で表そう」の授業実践と表現された作品をもとに、色彩イメージを活用した造形表現の教材化へのポイントについて考察してみたいと考えている。

## 参考文献

岡部慶三監修 社団法人日本流行色協会編『色のイメージ事典』(株)同朋舎出版 1991

財団法人日本色彩研究所監修『カラー&ライフ』日本色研事業株式会社 2004

小江和樹 「造形表現における色彩イメージに関する研究」『鹿児島大学教育学部研究紀要 第58巻 人文・社会科学編』 pp.117-125 鹿児島大学教育学部 2007

小江和樹 「造形表現における色彩イメージに関する研究(2)」『鹿児島大学教育学部研究紀要 第59巻 人文・社会科学編』 pp.161-168 鹿児島大学教育学部 2008